

自宅で中心静脈栄養（点滴）を受けられる方へ

【在宅中心静脈栄養法（点滴）について（ポート用）】

I. 必要物品

1. 病院から受け取るもの

輸液製剤、輸液ライン、ヒューバー針（注射針）、固定用キノプレス、アルコール綿、在宅用輸液ポンプ、絆創膏、固定用フィルム材、ガーゼ



2. ご自宅で用意するもの

使用後の針入れ（ジャムなどの瓶）、はさみ、鏡（自分で穿刺する場合のみ）

II. 方法

1. 手は石鹸で洗い、しっかり水気を拭き取りましょう。
2. 輸液製剤を冷蔵庫で保管している場合は、開始 2 時間前に冷蔵庫より取り出し常温に戻しておきましょう。ダブルバッグの場合は使用直前に開通させておきましょう。
3. 輸液ラインのクレンメを閉じて、ヒューバー針（注射針）と接続します。



4. 輸液製剤の注入口をアルコール綿で拭き、輸液ラインの針を根元までまっすぐに差し込みます。
5. 点滴筒の中央部まで薬液をためます。クレンメを開放しチューブを薬液で満たし、ヒューバー針（注射針）の先から少し薬液を出して確認したらクレンメを閉じます。（フィルターは薬液出口方向を上に向けます。）
6. ポート部の位置を確認し、アルコール綿で消毒しましょう。
7. 利き手でないほうの指でポートをはさみ固定します。
8. 利き手の指でヒューバー針（注射針）のウイング（羽根）をはさみ、ポートの中心に向かってまっすぐに刺します。針先が底に当たり、コツツという感触があるまで刺します。毎回刺す位置は少しずつ変えましょう。



9. ヒューバー針（注射針）のウイング（羽根）の下にガーゼをかませ、高さを調整し、キノプレスとフィルム材で固定します。



10. 輸液ポンプにルートを通してから全てのクレンメを開放し、輸液ポンプを開始します。
11. 輸液が終了したら全てのクレンメを閉じ、輸液ラインとヒューバー針（注射針）の接続部をはずします。
12. ヘパリン生食シリンジを接続しクレンメを開放し、注入します。（医師の指示があった場合のみ行います。）
13. フィルム材をはずしてから指でポートを固定しヒューバー針（注射針）を、まっすぐ抜きましょう。
14. ヒューバー針（注射針）を抜いた所に絆創膏を貼りましょう。

15. 抜いたヒューバー針（注射針）は用意した瓶の中に入れます。

Ⅲ. 注意事項

1. 薬液が落ちないときは何らかのトラブルが発生しています。クレンメが閉じていないか、ポンプが正常に作動しているか確認し、それでも輸液が流れない時は速やかに受診してください。
2. 発熱、ヒューバー針（注射針）の刺入部の発赤、腫れ、痛みなどの症状がある時は、すみやかに受診しましょう。
3. 入浴時ポートの上の皮膚は強くこすらないようにしましょう。
4. 入浴はヒューバー針（注射針）を抜いてから2時間以上あけましょう。
5. 輸液中に入浴する場合は、カテーテルの挿入部より下をシャワーにするか浴槽に入るなら腰までにしましょう。

Ⅳ. その他

1. 輸液ラインは持続点滴の場合は1週間ごと、持続でない場合は毎回交換しましょう。
2. ヒューバー針（注射針）や輸液ラインなどの医療用具のゴミは、受診時に病院へお持ちください。
3. 針刺しをしないように、ヒューバー針（注射針）の取り扱いには十分注意しましょう。

医療処置管理票

〈在宅 IVH〉

現在、実施している在宅 IVH は以下のとおりです。

1. 使用薬剤

- ☐ 輸液基剤 ()
☐ 抗凝固剤 ()
☐ ビタミン剤 () ☐ 生理食塩水 ()
☐ 脂肪剤 () ☐ その他 ()

2. 医療器材

- ☐ 輸液回路 (セット) ☐ インジェクションプラグ (個)
☐ 注射針 (本) ☐ 注射器 (本)
☐ ヒューバー針 (本) ☐ その他 ()
☐ フィルター ()

3. 衛生材料

- ☐ 滅菌綿棒 () ☐ 消毒液 (商品名 : ml 本)
☐ 滅菌ガーゼ (枚) ☐ その他 ()
☐ 絆創膏 (個)

4. 投入方法

- ☐ 持続
☐ 間欠 (時間／日、他) 注入速度 (ml／時間)

5. 自己管理能力

- ☐ 自己管理できる
☐ 一部援助必要
☐ 全面介助

6. その他 (入院中に行った指導、トラブルの対処方法など)

--

指導状況チェックリスト

〈在宅 IVH チェックリスト〉

A…看護師が実施 B…看護師の援助によりできる C…看護師の援助なしでできる

	/	/	/	/	/
1. 薬剤の名前が言える					
2. 指示量が言える					
3. 輸液開始の準備前に石鹸と流水による手洗いができる					
4. 輸液ラインのクレンメを閉じ、ヒューバー針を接続できる					
5. 輸液製剤の注入口をアルコール綿で拭くことができる					
6. 注入口に輸液ラインの針をまっすぐ刺すことができる					
7. 点滴筒の中央部まで薬液を貯めることができる					
8. フィルター及びチューブ内を薬液で満たすことができる					
9. ポートの刺入部をアルコール綿で消毒できる					
10. ヒューバー針のウイングを持ち、針をまっすぐに刺せる					
11. ヒューバー針のウイングの下にガーゼをかませて高さを調節し、フィルム材とキノプレスで固定することができる					
12. 輸液ラインをポンプに通し、全てのクレンメを開放してから輸液ポンプを開始することができる					
13. 点滴筒に薬液が落ちていることを確認できる					
14. 輸液が終了する前に手洗いができる					
15. 輸液が終了したら全てのクレンメを閉じることができる					
16. 輸液ラインの接続を外し、ヘパリンを注入することができる（医師の指示のよる）					
17. ヒューバー針を抜き、絆創膏を貼ることができる					
18. 針や輸液ラインなどの医療用具の後始末ができる					
チェック者（サイン）					